

日 時：令和元年 10 月 3 日（木）18 時 30 分 ～20 時 00 分

場 所：大坊コミュニティセンター

対象地区：大坊

参加人数：18 名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○健康診断について</p> <p>（市民から）</p> <p>健康診断で病気が早期発見され、助かっている人がたくさんいるのもっと勧めてほしい。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・市では、健康づくり宣言を行い、平川市長期総合プランで健康長寿青森県ナンバーワンのまちを目指そうということで進めているところである。・健康診断や健康づくりに関しての運動に参加すると健康ポイントをもらえ、ポイントによって抽選で景品がもらえるなど、健康づくりに参加してもらえるような取り組みも行っている。・国民健康保険に関しては、健康診断を受診したり、ジェネリック医薬品を使うことにより、国から市にお金が交付される制度がある。・去年から塩分チェック計を保健協力員や講座を受講された方に渡している。興味ある方は講座に参加してもらい活用してほしい。・平成 27 年の平川市の男性平均寿命は 78.1 歳で全国の約 1,800 市町村のうちワースト 9 番目、女性は 85.7 歳で全国のワースト 26 番目と非常に低い位置にいる。平均寿命と健康寿命の差が全国平均で男性は 9 年、女性は 12 年あるといわれており、その差をできるだけなくしていくために、まずは健康診断を受けて、何かあれば早く治療してもらい、食事や運動にも気を付けて、健康意識を高めることが非常に重要になってくる。・市でも健康診断に力を入れ、特定健診や各種がん健診の受診率も上がってきている。先月で各町会を回る健診は一通り終わったが、12 月に改めて健診を受けられなかった方を対象に、健康センター等で実施する予定である。
<p>○平川ねふたについて</p> <p>（市民から）</p> <p>平川市のねふたについて市外の人から活気があっていいと褒められる。平賀駅前の電線の地中化についてもいいと思う。</p> <p>（市から）</p>

- ・平川市のねぶたを見たいという人が多くなってきており、安全面の配慮が必要となってきた。電線の地中化は平賀駅前からバイパスまであと2年程で完成する予定となっている。
- ・街灯についても、中南県民局の地域整備部長と話をし、道路に対して縦向きに直すように計画をしている。
- ・ねぶた団体の要望や再来年に平川市で実施予定の10市大祭典に向けての対応として、安全面を考えて観客席を増やすために、運行コースをマックスバリューの方まで延長することも計画している。そうすると、ヤマザキデイリーストアの交差点にかかる電線も邪魔になるので、地中化して大きいねぶたでも通れるようにしたいと考えている。

○大坊小学校について

(市民から)

少子化で人数が減っているが、今後どういう見通しなのか。また、小杉地区から通学している子どももいるが、通学路に歩道がないところや舗装が割れて草が生えているところがある。先日、自転車のお年寄りが側溝に落ちて救急車で運ばれていた。補修なども必要になってくると思うができないものか。

(市から)

- ・教育委員会で今後学校の整備をどうするか検討協議中である。大坊小学校に関しては、現在3、4年生が複式学級で、去年時点で全校生徒が61人とのことで、少なくなっている中で今後については地域の皆さんと話し合いをして方針を出していくことになると思う。
- ・通学路の歩道整備については、各町会から多くの要望をもらっており、また、県道ということもあり、なかなか全部に対応するのは難しい。町会からの要望は現場を見て、優先順位をつけ対応している。

○公民館事業での市有バスの使用や助成について

(市民から)

公民館活動をしており、毎年バスを利用して研修に行っているが、民間のバス会社に借りると7、8万円程かかる。以前、市有バスを使えないか市に相談したが、貸せないとの回答であった。研修目的で、市有バスの使用を認めるか、半額でも3分の1でもいいのでバス費用の助成をしてもらえないか。

(市から)

- ・例年、年明けから2月くらいに、小中学校や保育園、老人クラブなどに対して募集をかけ、3月には年間の利用計画が出来上がっている。4月から9月までは学校行事が多く、予定が埋まっているので回数制限を設けて貸している。バスを今後増やす計画もないことから、新たな団体に貸すことが難しい状況にある。

・助成については教育委員会に伝えておく。

○各種団体の育成について

(市民から)

年々、各地域の婦人会の会員が少なくなっており、特に平賀地域は会員が少ない。年を取ると交流するのが難しくなるため、婦人会に限らず各種団体に、レクリエーションなどの交流について指揮をとる人がいればいいと思う。

(市から)

・生涯学習課で団体の育成をやっていると思うが、なかなか難しいようである。老人クラブについても、高齢者は増えているが会員は減っているのが現状のようである。

(市民から)

やる気のある人がいないと解決できないと思う。楽しいところがあれば来る人もいるはずなので、その工夫をどうしたらいいのか、お金のかけ方を考える必要があると思う。

先日、テレビで健康長寿の基として、読書など知的な刺激が健康長寿の最たるものだと紹介していた。自分の得になるところには人が集まると思うので、そのようなことを参考に取組んでほしい。平川市では健康ポイント事業をやっているがよい取組みだとは思いますが、健康診断を受けている人が多い町会に助成金を出すとかコンクールにすればいいと思う。それが健康だけでなくコミュニティの醸成にもつながり、震災のときにも役立つと思う。

(市から)

・健康診断を受けている人が多い町会に助成金を出すことについては、検討したことがある。若年層の受診率が低く、町会によって規模や年齢構成が違うので、ベースが同じでないとい不公平感が生まれるという懸念があった。

・現在、地域の健康づくり活動支援事業を行っており、積極的に運動などに取組む町会には助成金を出したり、介護予防の通いの場に補助金を出しており、この事業のように積極的な取組みに対して支援するのがよいのではないかという結論に当時はなった。また改めて、健康診断に対する町会への助成については検討する。

・一般的に、健康な状態から介護の状態になるまでの中間であるフレイルを予防するためには、栄養・運動・社会参加が必要と言われており、当市でも、社会参加の足掛かりとするため、通いの場を作ることを各種団体に進めていきたいと考えている。

○もみ殻の処理について

(市民から)

平賀町時代に農林課から、もみ殻をバイオマスとして活用できるとの話があったが、合併してからは出来ないとのことで、処理をどうすればよいか困っている。

(市から)

- ・黒石市のごみ処理場でバイオコークスをやるという話をしていたようだが、なかなか進まないようである。もみ殻で燃料を作ったとしてもそれを使うところがない。仙台市あたりで使っているところがあるようだが、輸送費をかけて持っていくことになるので、進まないのではないかと思う。

○空地・空家対策について

(市民から)

空地や空家の、草木や雪などの処理はどうすればよいか。

(市から)

- ・市内には432件の空家があり、そのうち特定空家は25件ある。持主にお願いをしているが、対応してくれないのが現状である。特別措置法ができて、平川市でも空家等の対応をしているが、まずは認定をして、指導、勧告、命令、行政代執行と段階を踏んで進めていくことになる。
- ・行政代執行は、一時的に市で費用を負担した後、持主に請求する形をとるが、全国的にみてもほとんど支払いに応じていただけないようである。
- ・空家バンクがあるが、登録する人が少ないようである。
- ・木が電線にかかっていると東北電力、道路に倒れて障害となっている場合は市や県などの道路管理者へ連絡をすれば対応する。台風などで危険な状態の場合は消防署で対応するが、あくまでも個人所有なので、日常で木が倒れそうなどの状態では市で手を付けられないというのが実情である。相談があれば、所有者の連絡先がわかるものについては、電話などで連絡をするようにしている。

○松崎地区の開発について

(市民から)

松崎地区の開発地は市で行っているのか。大坊地区でもできればいいと思う。

(市から)

- ・道路分の助成を市で出しており、開発は民間で行っている。平賀駅裏についても同じように民間で行っている。
- ・大坊地区は、優良農地が多く、市街化調整区域となっているため開発が難しい。

○ダムの活用について

(市民から)

今年は雨が少なく、浅瀬石ダムの水がなくなり田んぼが大変であった。久吉ダムなどの水を活用することはできないか。

(市から)

- ・久吉ダムについては、飲料水として碓ヶ関地域と大鰐町で利用しているが、農業用水として使えるのかわからない。久吉ダム水道企業団の議会など機会があれば聞いてみる。